

Title	表紙 目次
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1961
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.54, No.3 (1961. 3)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19610301--001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

慶應義塾経済学会

三田学会雑誌

1961年 3月号

論 説

- プランキに関する断片……………平井新 1
 「国民の職分」にかんする若干の考察……………田中明 20
 —思想史の問題点—

資 料

- 十九世紀末期から二十世紀初頭にかけての
 ドイツ帝国東部および中部における
 農業季節労働者の状態……………飯田鼎 32
 巨視的計量経済模型の
 動学的性質に関するふたつの研究について……………西川俊作 45

書 評

- ボルシェネフ著『フロンドの乱前の
 フランスにおける暴動』……………渡辺国広 57
 W.スターク著 杉山忠平訳『知識社会学——思想史の方法——』……………飯田鼎 62
 W.スターク著 杉山忠平訳『経済学の哲学的基礎』……………白井厚 66
 サン・シモンの歴史観に関する二つの論文……………野地洋行 72
 —研究資料として—
 国有化問題をめぐる最近の文献……………丸尾直美 77

新刊紹介

54巻

3

号

昭和36年10月24日
 昭和36年2月13日
 昭和36年3月1日
 第三種郵便物認可
 郵政特例法第1903号
 発行(毎月1日) 九〇三号

三田学会雑誌

昭和三十六年二月号

定価 金九〇円 (送料別)

MITA GAKKAI ZASSHI

(Mita Journal of Economics)

Vol. 54, No. 2

February, 1961

CONTENTS

- The Characteristics of Landed Property in Capitalism…………… M. Koike 1
 The Mechanism of Soviet Economic Growth…………… H. Kato 18
 Economic Growth, Inflation and Distribution in the Contemporary Capitalism…………… N. Maruo 30
 A Note on the Saint-Simonianism…………… H. Noji 56

Book Reviews

- British Labour and the Russian Revolution, 1917-1924, by Stephen Richards Graubard…………… K. Iida 65
 Insurances in U.S.S.R., by Nagatoshi Kasahara…………… N. Niwata 68
 Industrial Pension Plans, by Osamu Mano…………… N. Niwata 72

Published for

KEIO-GIJUKU KEIZAI GAKKAI

(The Keio Economic Society)

Editorial communications to be sent to the Editor, Keio-Gijuku Keizai Gakkai,

Keio University,

Mita, Minato-ku, Tokyo, Japan.

Price 90 yen

新刊紹介

山田雄三著『国民所得論』	
鈴木諒一著『国民所得の基礎理論』	……………大熊一郎 85
大川一司編『国民所得』	
グリーン編『プロテスタンチズムと資本主義』	……………渡辺国広 86
石原忠男著『恐慌の経済理論』	……………常盤政治 87
今津 晃著『アメリカ革命史序説』	……………中村勝己 88
今井則義(他)著『日本の国家独占資本主義』	……………寺尾 誠 89
伊東勇夫著『現代日本協同組合論』	……………高山隆三 90
池内信行編『中小企業論』	……………佐藤芳雄 91

ブランキに関する断片

平井新

ブランキといえは、とかく革命的な秘密結社や政治的暴動の指導者が連想されており、それを裏書きするように、しばしば引用されるのはエンゲルスの次のような評言である。いわく、「ブランキは元来政治的革命家であって、人民の悲歎に同情をもつ感情のみによる社会主義者である。しかし社会主義の理論もたなければ、社会救済の一定の実際的提案ももたない。……ブランキは元来「行動の人」であって……前代の革命家である」と。⁽¹⁾

(1) マルクス、エンゲルス全集 改造社版、第十二卷一二七。

つまり、ブランキは、無哲学、無理論で、ただただ現状破壊をめざして猪突邁進するところの衝動的な革命主義者であるといふのである。たしかにブランキの中にはこのような連想や評言に十分抗し

ブランキに関する断片

きれない側面があることは否むことはできないが、しかし、このような側面だけをしらべてブランキを片付けようとするならば、それは明らかに一方的な速断であって、ブランキ自身にとって酷にすぎたものであろう。エンゲルスのブランキ批評の意図がいずこにあつたのか、うかがい知ることはできないが、ともかくこの種のブランキ批評がエンゲルスの權威に助けられて広く行われ、今日ブランキ批評の一方の代表的見解となつてしまつてゐることは疑うことができない。久しく行われていたこのようなブランキ批評の甚だしく不当であることを初めて指摘した人は、修正派社会主義の創唱者として知られているベルンシュタインであつた。しかし、彼は、この問題を修正主義の原典と目されているその著作『社会主義の前提と社会民主党の任務』(一八九九年)の中で、マルクシズムの分析に関連して提起したに止つた。⁽¹⁾ 彼の後をうけてブランキ再検討のための系統的な研究が漸く相次いで行われるに至つた。その主なるものを挙げれば、まずシェヴァエス、⁽²⁾ ドマンジエ、⁽³⁾ メーソン、⁽⁴⁾ 小生等の研究、